

8. 最初の連絡は1回だけしかない

10人の人々が同じ事象を目撃しても、その印象は10通りに分かれる。最初連絡の仕方によって回答者の状況は変わってくる。この詳細を連絡記録に記録すること。

9. タイミングが鍵となる

対象者は自分がいつ、何を、どれくらいの時間行うのかに関心がある。我々の要求は彼らのスケジュールへの押し入りとも言えるが、そんな中でいかに対象者の都合に合わせて面接を行うことが出来るかがあなたの役目である。

10. だめでも積極的に記録を残す

初めは失敗しても、諦めないこと（もちろん対象者が許してくれたららの話であるが）。対象者はあなたがいつ帰るのかというそぶりを見せるかもしれない。回答者に拒否や嫌悪が感じられたら、無理強いをせず別の日まで待つこと。

対象者の関心事を見極める

対象者とコンタクトを取るとき、事前に手紙を出していることを忘れないこと。ひょっとすると世帯の住人は研究のことや面接の約束のことなどについて忘れてしまっているかもしれない。調査の重要性や彼らの貴重な情報による調査協力について強調して話してみる。また調査協力の謝礼として謝礼を渡していることについても話す。対象者が勘違いをしたとか調査依頼状を受け取っていないと答えた場合、もう一度通知を送付しても良いか申し出る。

調査に関する回答者のよくある返答を以下に説明する。

興味がない

電話をかけると「こういうの私嫌いなんですよ」「何故私がやらなくてはならないの」「興味深いですね。喜んでお手伝いさせて下さい。ただ今はとても忙しいので協力出来るのがいつになるかわかりません」などと答える人がいる。この類いの返答はほとんど無意識に、大抵の人々が電話で知らない声を聞くと決まった口調で言うことなのである。セールスの電話などに対応するときの決り文句に近いものである。

そのため、対象者がはじめは「興味ありません」と答えてもその後話を聞いてくれるようになることがある。「興味ありません」といわれたら、回答者がいかにこの調査において重要であるかについてよく説明する。

誰にでも対応できるようさまざまな角度から準備をしておくこと。対象者の返答に対して適切な判断が出来ないときには、少なくとも自分自身の信念をもって答えることができるようにする。自分自身の信念を持って行動するものはより多くの人々を説得できる。

色々な形で回答者が「興味ない」と答えた場合の対処を以下に紹介する。自分の言葉におき換え、スムーズに言えるようになるまで声に出して練習してみる。回答者が「興味ない」答えたら、以下のうちから選んで回答者に言うしてみる。

興味なくても構いません。ただあなたの意見がこの調査にとってどのくらい重要であるかをわかって欲しいのです。都合の良い日を教えていただければ喜んで時間調整させて頂きたいと思います。

一度参加されれば、やりがいを実感出来ると保証します。

ある大切な調査へのご協力をお願いしています。私は〇〇大学の〇〇学部から派遣されてきました。

プライバシーや機密事項

面接の約束を取りに回答者にコンタクトを試みた際、こんなことを言われるかもしれない。「個人的なことを人に話したくない」「そのような情報は漏らしたくない」など。このようなプライバシーに関する心配については以下のような返答が考えられる。

「うかがった内容があなたからのものであるとわかるような形で使うことは絶対にありません。また何を話して、何を話さないかはあなた次第です。調査結果は、名前や住所と切り離されて保管されます。もちろん国や県や市に個々人のデータがわたることはありません」

「あなたがプライバシーについてご心配なのはよくわかります。この調査に参加されることで、あなたに不利益がおきたりしないように、私たちはとても慎重に考えています。必要なら法律家にご相談いただけるような準備もしています」

「答えたくない質問があるかもしれないということで協力できないと考えないで下さい。調査で答えたくない質問がありましたら拒否して下さい結構です」

「すべての情報は極秘扱いで保管されます。たとえほんの小さな情報でさえ、あなたとわかることはありません」

「この調査に携わる者全員が、うかがった内容についてプライバシーを守るという誓約書にサインをしています」

面接調査の時間

面接にかかるおおよその総時間を回答者が聞きたがる一方で、あなたは通常の長さで面接を行いたいと思う。しかし言い換えれば、これは回答者が協力を考えているとも、または単に本心でそう聞いているとも取ることができる。このような場合は：

「面接時間は人によってさまざまです。どのくらい話すかによります。私たちとしては約2時間を予定しています。もしご希望であれば面接を分割することも可能です」

次回のために門戸を開けておく

回答者との言い争いは避けること。回答者を尊重し、自分の怒りをコントロールすること。回答者には「あなたのご都合に合わせて」と言うようにする。

調査についての説明中の中断

あなたが調査について説明している時に、対象者にそれを中断させられることは頭にくる。落ち込む前に、これらの中断に関して以下が考えられる。

- d. 中断は単にその場だけのことで、二回目はなくなることも多い。そんな時はおそらく以下の理由があったのであろう：
 - 忙しかった
 - 緊急時・混乱時・HHに来客中など
 - 電話時、寝ていたか見知らぬ声に不信感を抱いた
 - 単に不機嫌だったので八つ当たりした
- e. 二回目の電話では他の人が出て、前回のことを一切知らないなどということもよくある
- f. 最初に長く話を聞かなかったことから、同じ人であっても二回目には最初のことをすっかり忘れてしまっているということもよくある。
- g. 最初の突然の訪問（コンタクト）について詫びを入れ、相手の面目を立てるようにする。
- h. 中断する人は思ったほど粗暴でないことも多い。むしろこういった人は、一旦他人の頼み事を引き受けると断れなくなってしまうようなタイプの人であることが多い。したがって、最初の段階ですぐに人の話を聞かずに、面倒な話に巻き込まれるのを防ごうとするのである。逆にこのような人々の良い点は、拒否反応を示す前に手短なやりとりで約束を取り交わすことが出来ることとも言える。

情報提供者は単に電話を切ることでその場を（一時的に）逃げる事が出来たわけであるが、その後も電話を切りさえすれば良いと信じ込む。それが中断の辛い点といえる。

このような場合の対処法としては以下が考えられる。

- ✓ 最初に自己紹介したときとは違う言い回しを使ってみる。
- ✓ 前回と違う情報提供者が電話に出たら、前回の電話について言及せずに新たに会話を交わす。
- ✓ 前回と同じ情報提供者が電話に出た場合、いくつかのアプローチが考えられる。

「〇〇大学ですが、この度はそちらにご不快な思いをさせてしまったようで、謝罪のお電話を差し上げました。とりあえず、私たちが行っておりますことに関して簡単にご説明させて頂きたく思い、お電話差し上げました」先方は素直に説明させてくれるか、単にそれを聞いてくれるだろう。

3.4 対象者との連絡

調査依頼状

調査依頼状は、回答者の懸念を和らげ調査協力を促進する上で極めて有効といえる。いくつかの依頼状をあらかじめ設定してあるが、特殊な状況に対応する手紙を書くことも可能である。

「訪問しましたがお留守でした」カード

訪問したが対象者が留守の場合、調査員の訪問を知らせ、よければ調査センターか調査員に連絡してほしいと伝えるカードなども有効である。

第4章 面接調査の手順

4.1 概要

第4章では、回答者の同意を得たり、特殊な面接状況での対処やコミュニティ・リソースカードの利用方法など、NSHS 調査における手順についてのさまざまな情報を説明する。成人・青年のクロスセクション面接調査の段階的な方法を説明し、同様に親の SAQ についても概説する。章の終わりでは、毎日の作業と週ごとの報告作業について概説する。

4.2 同意を得る

この調査では、面接の前に書面での同意を得なければならない。

「こんにちは、私は〇〇大学の（調査員の名前）と申します。[直接対面の場合、身分証明書を見せる] ストレスと健康についての調査を行っております。そちらにお住いの〇〇様が調査の対象として選ばれましたので、よろしければお話をうかがいたいたのですが」

「お話をうかがう前に、この調査の目的や内容をご理解いただいた上で調査への参加に同意いただいた証拠に、この「同意書」にお名前、ご住所、日付をご自身でご記入いただけますか。この「同意書」は私たちが正しく調査を行っている証拠となるものです。」

4.3 回答者への謝礼

調査終了後、回答者に謝礼を渡す。

回答者に謝礼を渡した後、原則としてサインの入った領収書を受け取り、調査センターに提出する。

4.4 心の健康に関する相談先カード

調査センターによっては、心の健康に関する相談先カードを、面接開始時に回答者に渡すことになっている。このカードは回答者全員に渡していると説明すること。

4.5 面接手順

調査対象者とのコンタクトの仕方は、調査地域ごとに計画されるため、詳細は各地域調査センターからの指示に従うこと。

1. 調査依頼状を郵送する。3週間以内に作業を終えることが可能な人数分だけに送付すること。
2. 調査依頼状に同封された返信用葉書あるいは電話で、対象者から調査への協力の意志がある旨の連絡があった場合には、電話で面接調査の日時、場所を相談する。
3. 調査依頼状発送後数日以内に調査協力の連絡がない場合には、
 - 1) 電話番号が電話帳からわかる場合には、電話で調査の説明と協力依頼を行う。
 - 2) 電話番号がわからない場合には、自宅住所を直接訪問して調査の説明と協力依頼を行う。訪問したが留守だった場合などは「留守でしたカード」などを郵便受けに投函し、連絡を待つと同時に再度の訪問を計画する。
4. 訪問の計画を立てる。
5. 必要となる資料・書類を準備する。

調査依頼状（予備用）

調査パンフレット（予備用）

対象者用資料ーカバーシート、地図

認知機能セクション（冊子体）

回答者用小冊子

鉛筆、消しゴム

謝礼

ノートブック・パソコン

テープレコーダー、録音用テープ、電池（面接をテープに録音する場合）

調査同意書

6. 回答者用小冊子に対象者のIDを記入する。

7. 面接を開始する。
8. 面接終了時、謝礼を渡す。同意書、回答者用小冊子、自己記入式アンケート（あれば）を回収する。
9. 調査センターに帰宅したら、最後の連絡記録を記入する。カバーシートを面接完了者フォルダーに保管し、パソコンをそのまま担当者に返却する。

4.6 一日の終わりに

以下は、毎日の終わりにやるべき項目のリストである。

完了・未完了の面接調査も含めて、その日のカバーシートの情報を確認する。

行った作業や完了した面接などについて連絡記録に記録する。これらの情報は他の調査員に役立つ可能性がある。

必要であればコンタクト時の詳細な状況などを記録する。

対象者の対応を記録する。

その日にかかった費用に関する情報を記録する

4.7 資料・書類送付に関して

調査結果や資料は、原則として地域調査センターに持参して提出するが、必要な場合には郵送することもある。

4.10 データのバックアップ

毎日その日の仕事データをバックアップする。バックアップは別途説明する。

第5章 WMH 調査票

5.0 概要

この調査は「コンピュータ利用による面接調査」(CAPI)によって実施される。この章では、パソコンの利用法、面接ソフトウェア「Blaise」の基礎知識、心の健康セクションにおける面接法、回答者用小冊子など、調査の基本的な技術について説明する。

5.1 Windows パソコンの基本

面接用ソフトウェア Blaise (ブレイズ) は、Windows 95/98/98se/Me/2000/XP オペレーティングシステムの上で動作する。これ以外のパソコン (マッキントッシュなど) では動作しないので注意すること。

まずパソコンの電源スイッチを入れること、Windows を起動すること、続いて Windows の終了とパソコンの電源スイッチを切る方法について十分習熟する。Windows2000 を用いている場合には、Windows の起動時や一時的中断からの復帰時にユーザー名とパスワードの入力が求められる場合もある。調査センターの担当者からユーザー名とパスワードをもらっておくこと。

使用するパソコンに、一時中断の機能がついている場合には、この使い方およびそこから復帰の仕方についても慣れておくこと。一時中断は、パソコンを最初からスタートさせるよりもずっと早く使用可能にできる。またいろいろな事情で面接が一時中断された場合に、バッテリーの消費を抑えることができるので有用である。一時中断の機能には次の2つがある。

1) パソコンのメモリに一時保存する場合：中断からの復帰が非常に早い。バッテリーが完全になくなってしまうと記憶が失われてしまう。1～2時間以内の短い中断向き。

2) パソコンのハードディスクに一時保存する場合：中断からの復帰は早い。バッテリーが完全になっても記憶は失われない。数時間以上の長い中断向き。

一時中断は、たいていのパソコンでは **Fn キー** と **ファンクションキー (F1～F12)** のどれかを同時に押すことで実行できる。どのキーが中断キーかはファンクションキーのラベルをよく見ること。また電源キーを軽く押すと復帰できる。

5.2 Blaise の基本

「Blaise」（ブレイズ）は面接を行うためのコンピュータソフトウェアである。ここでは「Blaise」の使用方法について述べる。

Blaise のスタート

「Blaise」をスタートするには、デスクトップ上にある「○○調査」フォルダーをダブルクリックして開き、さらにその中にあるショートカット「WMH調査」をダブルクリックする。

Blaise の終了

以下のいずれかの方法で「Blaise」面接を終了できる。

- 1) 「ファイル」メニューを選び、「終了」を選択する。
- 2) 「ALT+X」で面接を中断・終了する（**Alt**キーと**X**キーを同時に押す）
- 3) 面接プログラムの実行中の右上に×印があるので、ここをマウスで1回押す。

Blaise の通常画面と機能

「Blaise」にはいくつかの機能がある。トレーニングの際にこれらの画面と機能について概説する。配布する資料とトレーニングを通して、このアプリケーションを使いこなせるようになるまで練習すること。

1) 「ファイル」メニュー

マウスで「ファイル」メニューを選ぶ（あるいは「ALT+E」）とサブメニューが表示される。

- 「新規」を選んで、新しい面接をはじめめる。
- 「一覧」を選ぶと、これまでの面接データの一覧が表示される。
- 「削除」で、現在表示されている面接データ（1人分）を消すことができる。
- 「終了」あるいは「ALT+X」で面接を中断・終了する。

2) 「回答」メニュー

- 「回答」メニューを選ぶとサブメニューが表示される。
- 「不明」：不明の回答を入力する（**CNTL+D=Ctrl**キーと**D**キーを同時に押下でも同じ）
- 「拒否」：拒否の回答を入力する（**CNTL+R=Ctrl**キーと**R**キーを同時に押下でも同じ）。
- 「メモ」（**F 2**キー）：面接中の特記事項やどう入力していいかわからなくなった時にメモを残すために使う。

3) 「移動」メニュー

- 「移動」メニューを選ぶと、以下のようなメニューが表示される。
- 「最後の質問」：以前に中断した面接などは、面接した最後の質問にジャンプする。

4) メモ機能(F2)

- **F 2**を押すと、remark というウインドウが開く。
- ウインドウ内に文字を入力する。漢字も入力できます。
- **Save**を押すか、**ENTER**キーを押すとウインドウが閉じて、入力した内容が記録される。
- **ESC**キーを押すと、入力をキャンセルすることができる。

5) 「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューを選択する、あるいはF 1キーを押すことで、その質問に対する補足説明が表示される。ヘルプウインドウの右上の×をクリックするとヘルプが終了する。Q x Qがないときもある。その場合はエラーが出るので、「OK」を押して次に進む。

回答の入力の基本

表示された質問文を読み上げる。

キーボードまたはマウスによるクリックで、対象者の回答を入力する。

入力したら、**Enter**キーを押して、次の質問に進む。**Tab**キーでも、次の質問に進める。入力すべき項目に入力のない場合や範囲外の数字など妥当でない回答をした場合には、エラーメッセージが表示されることもある。

1) 単純選択型：以下のような入力タイプである。

- | |
|---------------------------|
| <p>○1. はい
○2. いいえ</p> |
|---------------------------|

キーボードから1または2を押して選択する。マウスでカーソルをあてて、クリックしても選択できる。指定された以外の数字を押すと、(英語の)エラーが出るので、「OK」をクリックするか**Enter**キーを押して再入力する。間違えて入力された数字は**BS**キーを押すと消去されるので、再入力する。

2) 複数選択型：表示された選択枝から、複数の項目を選ぶ場合。

マウスで、項目をクリックすると複数を選択できる。キーボードから、1-2-4-10のように、数字の後にマイナスキーを入力しても複数項目を選択できる。

3) 数字入力型：何回、何日、何歳など、数字を入力することを求められる場合

マスの中に数字を直接入力する。範囲を越えたり、前の回答と合わない数字が入力された場合には、エラーメッセージが出る。「OK」をクリックするか、**Enter**キーを押して、エラーメッセージを消してから、再度入力する。前に入力した数字を修正するには、「BS」キーを押す。

4) 自由記入型：「記載してください」のような指示の場合。

何かキーを押すと、メモのウインドウが開き、入力できる。漢字も使用できる。最初の1文字はウインドウを開くための刺激として使われるので、注意する。スペース(空白)キーなどを押して、メモウインドウが現れるのを待つのがよい。「SAVE」ボタンを押すか、**Enter**キー入力でメモウインドウを閉じると、内容が記録される。

「CANCEL」ボタンを押すと入力した内容をキャンセルできる。

F 2 キーを押してメモを入力するのと原理は同じ。

- 5) 職業リストからの選択：表示されたリストから、該当項目の番号を押すと、別のウインドウが開く。キーボードから数字を入力するか、カーソル（↑↓→←）キーで選択して、**Enter** キーで決定する。マウスでの選択もできる。「**SELECT**」を押して決定する。数字がマスに入力されたら、**Enter** キーで次ぎの質問に進む。「3.1」など、小数点まで選択しないと、エラーが出る。まず入力欄に国名や薬名の最初の数文字を入力する。
- 6) 不明や拒否の入力
CTRL+D：「不明」の回答を入力する。
CTRL+R：「拒否」の回答を入力する。

日本語（漢字）入力

ALT キーと **漢字** キーを同時に押すことで、日本語（全角）モードと英語（半角）モードが切りかわる。（プログラムスタート時は英語モード）。単純選択、複数選択、数字入力では、英語（半角）入力しか受けつけないので、漢字モードから英語（半角）モードに戻す必要あり。メモ入力（**F 2**）は日本語でも英語でもOK。

日本語と英語を切り変えるのが不得意な人は英語（ローマ字）で入力してもよい。

面接調査におけるヒント

- 面接前に、面接用ソフトを実行し、事前に、対象者の ID 番号、イニシアル、調査員番号を入力して、いったん面接を終了する。
- 調査に出かけて対象者に会い、面接用ソフトをスタートし、「メニュー」から「一覧」を選択し、すでに入力した対象者をリストから選択して、面接を開始する。
- 重要：対象者の名前や住所は Blaise ソフトに入力しないこと。

面接調査の中断

面接を一回で終了させられないことがある。回答者が疲れてしまったり、思ったより面接に時間がかかってしまったり、思わぬ来客などで面接が中断させられてしまうこともある。このような状況において、面接を中断しなければならない。中断（サスペンド）する場合、**Alt** と **X** を押す。

面接中断の場合、その理由、中断時の質問番号と日付、続きの面接を行う日付と時間について連絡記録表に記録する。記録表への記入は出来るだけ早く行うこと。

面接中断の際注意することは以下の通りである：

質問中のセクションの終わりまではなるべく終わらせるようにする。それによって回答者は特定のトピックに集中することができ、また次の面接でトピックを無理やり思い出さなくても済む。セクションを終わらせることが不可能であれば、回答中の質問だけは確実に終わらせ、それから次の設問に進むようにする。質問に対する回答が完全でない限りコンピュータにセーブすることはできない。

続きの質問番号を必ず書き記しておくこと。連絡記録表に番号を記録し、次回に面接を再開したとき、確認する。

続きの面接をいつ行うか決めてから帰ること。

ウィンドウズのスタート画面に戻り「終了」手順に従ってパソコンの電源を切る。

回答者の拒否によって面接が中断した場合、カバーシートにその情報を必ず記録すること。

以前に途中で終わった面接の再開

初回と同様に続きの面接を再開する。Blaise をスタートし、「ファイル」メニューから「一覧」を選び、上下の矢印キーで中断した対象者を選択して ENTER キーを押す。対象者の面接記録が画面に表示されるので、「移動」メニューの「最後のページ」でまず質問 HU8（守秘の説明）に進み、ここに 1 を入力し、再度「最後のページ」を選択すると中断した質問まで進む。

注意：中断した質問の続きから面接を再開したかどうか確認すること。

失われた面接データの回復方法

電力不足や人的エラーによってパソコンが不正に終了することがある。このようなとき、パニックに陥らないこと。失われり壊された面接データの回復方法があるので、調査センターの担当者に連絡する。

5.3 心の健康セクションの面接例

面接調査員マニュアルには、面接に必要な一般的面接テクニックの詳細が記されている。これに加えて心の健康セクションには特別な面接テクニックがある。以下のセクションはその概要である。

繰り返しでてくる質問グループ

心の健康セクションにおいて繰り返し使われる4種類の質問がある。これらには治療歴、0～10段階評価、身体的原因、発症と最終時期などが含まれる。

1. 治療歴

心の健康セクションでは、心の健康問題のための治療についての質問が最後にある。過去に心の健康問題を医師または専門家に診察してもらったことがあるか、また診療時の年齢、治療プロセス、過去12ヶ月以内の治療についてなどの質問である。

治療に関する質問は、そのセクションにおいて対象となっている心の健康問題の症状について、過去に医師または専門家に相談したことがあるかどうかという質問から始まる。親や保護者などが回答者の代わりに心の健康問題について医師または専門家に相談したのであれば、それも含まれる。

まれに回答者の家族・友人・その他が医師や専門家であり、正式に病院に行ったり電話でカウンセリングを受けたりしたのではなく、簡単に相談する場面がある。その際、専門的なアドバイスや指示を得たのであれば、回答は「はい」とする。

治療関連の定義 –

医師:	医学部を卒業した資格のある医師または精神科医
その他の専門家:	心理学者、カウンセラー、宗教家、漢方医、針灸師、その他の精神的な治療の専門家
治療:	心の健康問題のための専門的なカウンセリングや専門家の管理による薬の処方など。
処方:	回答者が薬を得る上で、医師が薬剤師に直接または電話で指示を出すこと。医師がアドバイスした場合でも、市販薬や民間療法などは含まれない。

回答者に初めて質問するとき、「医師」と「その他の専門家」の定義について必ず読むこと。その後は、必要に応じて繰り返すこと。

2. 12ヶ月以内の障害の0～10段階評価

心の健康セクションでは過去12ヶ月間に心の健康問題の症状があったと報告した回答者に対し、その症状が回答者の日常生活や活動に影響を及ぼした月または数ヶ月間のうちで、最も症状が重かった時の程度について、0～10段階評価で回答する質問群がある。

うつ病や恐怖症などの障害では1ヶ月未満（例えば1～2週間程度）しか続かないものもある。そのような場合でも、回答者には1ヶ月を単位として考えてもらう。また、心の健康問題によって回答者の日常生活が影響されたとしてもそれが数日間程度である場合には、その月の障害の程度は中程度とする。

回答者には、生活に支障がない場合は0、最も大きな支障があった場合を10として0～10段階の評価をしてもらう。0～10までの間には、1～3「少しの支障」、4～6「中程度の支障」、7～9「大きな支障」の3つの範囲がある。回答者用小冊子にはわかりやすい表示が設けられている。

回答者が数字よりも言葉（例：「中くらい」など）の方が答えやすいということであれば、一回だけそれに合った数字を、回答者と一緒に考えてみる。言葉で回答するようであれば、言葉に合う範囲の中間点を小冊子の表に照らし合わせてみる（例えば、2は「少しの支障」、5は「中程度の支障」、8は「大きな支障」）。

3. 身体的原因に関する質問

心の健康セクションでは、考えられる身体的原因を問う質問が多くある。

最初に、過去に心の健康問題について医師と相談したことがあるかを尋ねる質問がある。もしある場合、医師から聞いた原因について自由回答式で質問する。回答を記録する時には、面接員は原因のリストを見て回答者が言及したものを選択する。リストに回答がない場合「その他」を選択し、次の画面でその原因を詳しく記録する。回答は複数可能であることを忘れずに。回答者が医師と相談したことがない場合、その症状の原因が身体疾患・傷害、薬剤投与、麻薬・アルコールではないか質問する。

4. 発症時期と最終時期

心の健康セクションでは、症状の発症と最終時期について確認する。症状の発症については特定の症状や障害が最初に発現した年齢を質問する。もし正確な年齢を忘れてしまっているようであれば、大体の年齢を聞くようにする。発症時期に関する同様の質問には、最初に医師に診断してもらった時期などについての質問がある。

最終時期については症状や障害が最後に発現した年齢を質問する。この質問にはさまざまな聞き方があり、例えば症状が最後にあったのは先月か、過去半年以内か、半年以上前かという聞き方をする。回答者の障害が1年未満の場合、発症と最終時期は同時期ということもある。

回答者が正確な年齢を言えずに大体の年齢範囲を答えるようであれば、一度は「一番近いと思う年齢は何歳ですか？」と聞いてみる。それでも正確な時期を答えることが出来ないようであれば、発症については範囲のうち一番早い時期（年齢）を、最終時期については一番最近の時期（年齢）を記録する。

症状をたずねる質問

回答者が「わからない」という場合、面接員は回答者から回答を得るためにもう一度たずねるのが普通である。ただし症状を問う質問ではこの限りではない。症状の一覧からこのような症状を経験したことはないかと回答者に「はい」か「いいえ」で答えてもらう場合、回答者が「わからない」と答えたなら、聞き返すことなしに「いいえ」とする。回答者が症状をすぐに思い出せないということは、症状が実際になかったか、あったとしても思い出せないくらい非常に軽微であったと考えられるからである。

回答の範囲を探る・記録する

範囲で回答された場合には「どれが一番近いと思われますか」と一度はたずねる。再度確認した後でも回答者が正確な回答が出来ないようであれば、面接者は以下のルールに従って回答を記録する。前述の通り、発症についてはその範囲のうち一番早い時期（年齢）を、最終時期については一番最近の時期（年齢）を記録する。症状の持続期間や重症度を聞く質問では、同様に一番長い期間、一番重い数について記録する。ただし収入など症状以外の質問に範囲で答えられた場合は、中間点について記録すること。

程度や頻度の強調

さまざまな心の健康問題を診断する上で、繰り返し使われる語句がある。これらの語句は重要な意味を持つ。回答者がよく理解出来るように質問をゆっくり読み、頻度・程度・期間などのキーワードを強調する。質問でよく使われるキーワードやフレーズに慣れておくこと。

頻度：	頻繁に・しばしば・通常
程度：	まったく・かなり・一番
期間：	これまで・いつも

状態の変化

回答者の状態が普段と変化したという点が、診断されるべき心の健康問題の特徴となる。症状を聞くときは必ず、その時期に回答者の普段の状態が変化したことに着目する。例えば、摂食障害の質問において、大食いをした後落ち込んで一人で食事をするかという質問したとする。一人で食事をする事が回答者にとって普通のことであればコードは「いいえ」となる。なぜなら回答者の普段の行為と変わりがないからである。

5.4 回答者用小冊子

回答者が視力に問題のない場合は、「回答者用小冊子 (RB)」を見ながら回答することになる。回答者用小冊子には、長く複雑な質問の意味を回答者が理解し正確に回答できるように回答カテゴリーが設けられている。回答者に回答者用小冊子を記入してもらう際には鉛筆を持って行き、忘れずに回答者 ID を記入すること。

回答者に回答者用小冊子のページを開かせる時は、正しいページを開いているかどうか確認すること。回答者用小冊子を用いながらの質問を開始する際、「Blaise」画面上部の括弧内に表示されているページ番号を確認する。以下のように表示されるはずである。

(小冊子, XX ページ)

ここで「小冊子の XX ページを開いてください」のように言う。

回答者は小冊子に書き込むので、常に新しい小冊子を回答者に渡すようにして、古い小冊子を再利用しないこと。面接が終了次第、小冊子は回収する。面接に使った回答者用小冊子は ID 情報の書き込まれている表紙部を破棄し、残りは処分する。

5.5 WMH 調査票の構成と Q x Q

WMH 調査票は、健康・心の健康・回答者を取り巻く社会環境などに焦点を当てた 44 セクションから構成されている。以下に各セクションの要約といくつかの質問項目については質問目的 (QxQ) を説明してある。パソコン・アプリケーションでも F2 を押すと QxQ が出る。

世帯情報(HHL)

Blaise に HHL を入力する際、選定した回答者を最初のラインに入力する。これは自動的に行われる。

すべての同居者を Blaise に入力し終わったら「END」を押し HHL を終了する。表からラインを削除する場合は、矢印キーを使ってカーソルを「列削除 (Delete Row)」に持っていき「1 (はい)」を押す。消す予定のない同居者についてはこの列は何も入力しない。誤って入力したら BS キーで消す。

「確認画面」では「1」を入力すると同居者情報をロックする。**この後は HHL 内のデータを変更しないこと。**

スクリーニング・セクション(SC)

スクリーニング・セクションでは、回答者に関する基本情報を収集する。ここでは身長、体重、配偶者の有無などに関する質問がある。SC5 では回答者の健康全般に関する短い質問群がある。

SC19 では、生活上発生するさまざまな精神的障害についての二択質問群が設けられている。これらの「はい・いいえ」形式質問への回答によって残るセクション全体の質問の流れが決まる。

SC19. あなたにこれまであったかもしれない、心と体の健康問題について伺います。できるだけ正確なことをうかがいたいので、よく考えてから答えてください。よろしいですか。

これは重要な質問である。回答者には注意深く回答することを理解させる必要がある。ここで回答者が注意深い回答について拒否の態度を示すようであれば (例: 「今日は本当に疲れていて調子が悪いから、どのくらい集中出来るかわからない」など)、調子の良い日に面接日を変えること。

SC20. これまでに、突然とても怖くなったり不安になったり、あるいはひどく落ち着かなくなったりする恐怖やパニックの発作が起きたことはありますか。

このセクションの残りの質問は、調査の中で最も重要な質問である。これらの質問はゆっくり読むこと。回答を反復し、注意深く回答したかどうか確認する。

SC25a. これまでに、言い争いを始めたり、人に向かって怒鳴ったり、あるいは人を殴ったりしてしまうほど、ほとんどいつも、とてもイライラしていたことが、数日以上続いた期間はありましたか。

この質問は SC25 と異なって、言い争ったり、怒鳴ったり、暴力をふるったりするような、もっと激しい短気性についての質問である。

SC31 – SC34 質問群

これらは回答者の小児期の経験についての質問群である。回答者が小児期・青年期にこれらの問題を経験している場合、コードを「はい」とする。幼児期でも異常であった場合は「はい」とする。

SC31. 次は、たいてい子供時代に始まる集中力の問題についてお聞きします。ここで言う問題とは、自分がしていることに集中できず、遊びや勉強にすぐに関心を失い、やり始めたことを気をそらさずにやり通すことが困難で、人の話を聞いていないということの意味します。小学校低学年、つまり6歳から10歳の間で、そのような問題が他のたいていの子供よりかなりひどかったことが、6ヶ月以上続いた期間がこれまでにありましたか。

回答者が学校に通っていなかった場合にはコードを「いいえ」とする。

SC33. かんしゃくを起こす、大人と言い争ったり口答えをしたりする、先生や両親から頼まれたことを拒む、わざと人をいらだたせる、あるいは短期であったりイライラしたりする、などのように、他の人をしばしば怒らせることが、これまで子供時代や青年期の間に6ヶ月以上続いたことがありましたか？

誰でも子供のときはこのようなことをする。ここでは「しばしば」という語を強調し、質問を繰り返して「しばしば」という語を強調することによって正確な回答を探るようにすること。

SC35. 大人になっても、家族や恋人や親しい友人と離れるのが困難な人もいます。例えば、とても混乱したり、とても心配したり、くっついて離れなくなったり、依存するというよ

うなことがあります。今までに、このような問題が1ヶ月以上続いた時期はありましたか？

この質問は SC34 とは異なり、成人期の経験についての質問である。回答者が先の質問との混同した時は、二つの質問の違いを説明する。

うつ病 (D)

このセクションの質問の一部は、うつ病の診断を意図した精神医学的な質問である。ここでは、2週間以上、または一年以上通して毎月3日間以上うつ状態を繰り返したことがあるかなどの質問がある。スクリーニング部には回答者にうつ病を認める3種類の質問がある（「悲哀感・空虚感・抑うつ感を感じる」「何事にもやる気がわからない」「日常生活での物事に落胆を感じる」などの症状の発現について）。これら症状の発現について回答者の回答内容によって言い回しを適当に変える。

うつ状態を正確に判断するためには、これらの症状の発現が睡眠・活力・集中力その他の精神的または行動上の障害を伴う点に注意する。これらの症状の発現を訴える人には、その頻度・程度・生活に与える影響について、またこれら障害に対し専門家による治療などを受けているのであればその内容について質問する。

D24a. 以下の質問に答える際には、あなたの悲しみや興味がなくなったこと、およびその他の問題が最もひどく、かつ多かつた2週間以上続いた期間について思い出してください。以下のそれぞれについて、その期間にそのことがほぼ毎日、ほとんど1日中起きたかどうか答えてください。

この質問の意味するところは「期間」にある。「ある期間」または「この期間」という語は D24・D26 の質問群において繰り返し出てくる。これらすべての質問では、回答者が最も重い抑うつ状態にあった特定の期間について聞く。もしも回答者が語の意味に戸惑っているようであれば、「期間」という語は（悲哀感・意欲低下・関心の欠如）などの障害が（数日間/2週間以上）続いた状態を意味するということを説明すること。

D29a. このような期間は、身体的な病気やけが、あるいは薬やアルコールを使うといったような身体的な原因のために起こることがあります。これまでに、悲しかったり、興味がなくなった期間は、そのような身体的な原因のために起こったと思いますか。

D29a では、薬剤使用やアルコール摂取などに起因する、うつ病の生理学的原因に焦点を当てる。例えば甲状腺疾患などの身体的疾患がうつ病を引き起こしたのであれば、コードは「はい」とする。病気や傷害が原因だとしても、回答者が入院させられて、結果としてそれまでの通常の生活に戻れなくなってしまったような場合に悲哀感・意欲低下を感じたのであればコードは「いいえ」とする。

躁病 (M)

このセクションでは、過去における 4 日間以上の躁病の症状発現について質問する。スクリーニング部には回答者に躁病を認める 2 種類の質問がある：「過度の気分高揚や興奮が原因でトラブルを起こした」「過度の苛立ちが原因でトラブルを起こした」など。これら症状の発現について回答者の回答内容によって言い回しを適当に変える。

躁状態を正確に判断するためには、これらの症状の発現が睡眠・活力・集中力その他の精神的または行動上の障害を伴う点に注意する。これらの症状の発現を訴える人には、その頻度・程度・生活に与える影響について、またこれら障害に対し専門家による治療などを受けているのであればその内容について質問する。

このセクションでは、必要であれば「気分高揚や興奮」という語を「気分高揚・興奮・躁状態」のように変えても良い。(回答者は、実際に躁病であったにもかかわらず、自分が気分高揚状態でも興奮状態でもなかったと言うことがある)

M7a-o. この期間に次のような変化を経験しましたか。

M7a. とても落ち着かず、そわそわした気分になって、うろうろ歩き回ったり、じっとしていただけませんでしたか。

この質問群では、躁病の最も重い時期に起きる障害について質問する。「この期間に」という語は、この質問群において頻出する。もしも回答者が語の意味に戸惑っているようであれば、「この期間」という語が、(気分高揚・興奮状態)などの障害が(4日間以上)続いた状態を意味するということを説明すること。